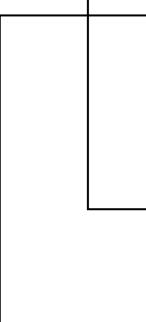


さくたろうしきみこうしりょう  
朔太郎詩参考資料

はきわらさくたろうし  
萩原朔太郎の詩であれば、ほかのものでも構い  
ません。



およぐひと

およぐひとのからだはななめにのびる、  
二本の手はながくそろへてひきのばされる、  
およぐひとの心臓はくらげのやうにすきとほる、  
およぐひとの瞳はつりがねのひぢきをききつゝ、  
およぐひとのたまひは水のうへの用をみる。

月夜

へんてこの月夜の晩に  
ゆがんだ建築の夢と  
酔っぱらひの円筒帽子。

猫

まつくろけの猫が二足、  
なやましいよるの家根のうへで、  
ひんとたてた尻尾のさきから、  
糸のやうなみかづきがかすんでゐる。  
『おわあ、こんばんは』  
『おわあ、こんばんは』  
『おぎやあ、おぎやあ、おぎやあ』  
『おわああ、ここの家の主人は病氣です』

旅上

ふらんすへ行きたしと思へども  
ふらんすはあまりに遠し  
せめては新しき背広をきて  
きままなる旅にいでてみん。  
汽車が山道をゆくとき  
みづいろの窓によりかかりて  
われひとりうれしきことをおもはむ  
五月の朝のしののめ  
うら若草のもえいづる心まかせに。

蛙よ。

まづくらの地面をたたきつける、  
今夜は雨や風のはげしい晩だ、  
つめたい草の葉つぱの上でも、  
ほつと息をすひこむ蛙、  
ぎよ、ぎよ、ぎよ、ぎよ、と鳴く蛙。

眺めて居た。

ハハハ

ひとの手におもみを感じ、

ハハハをばなににたとへん  
ハハハはあぢさゐの花

ハハハはいつもかくさびしきなり。  
ハハハはまた夕闇の園生のふきあげ

ハハハはひとのからだはななめにのびる、  
ハハハは二本の手はながくそろへてひきのばされる、

ハハハはひとの心臓はくらげのやうにすきとほる、  
ハハハはひとの瞳はつりがねのひぢきをききつゝ、

ハハハは水のうへの用をみる。

月夜

へんてこの月夜の晩に  
ゆがんだ建築の夢と  
酔っぱらひの円筒帽子。

蛙よ、

ハハハは二人の旅びと  
されど道づれのたえて物言ふことなれば

ハハハはいつもかくさびしきなり。  
ハハハはひとの心靈にまさぐりしづむ、

ハハハはひとの手におもみを感じ、

ハハハをばなににたとへん  
ハハハはあぢさゐの花

ハハハはいつもかくさびしきなり。  
ハハハはまた夕闇の園生のふきあげ

ハハハはひとのからだはななめにのびる、  
ハハハは二本の手はながくそろへてひきのばされる、

ハハハはひとの心臓はくらげのやうにすきとほる、  
ハハハはひとの瞳はつりがねのひぢきをききつゝ、

ハハハは水のうへの用をみる。

竹

青いすすきやよしの生えてる中で、  
蛙は白くぶくらんでゐるやうだ、  
雨のいつぱいにふる夕景に、  
ぎよ、ぎよ、ぎよ、ぎよ、と鳴く蛙。  
まづくらの地面をたたきつける、  
今夜は雨や風のはげしい晩だ、  
つめたい草の葉つぱの上でも、  
ほつと息をすひこむ蛙、  
ぎよ、ぎよ、ぎよ、ぎよ、と鳴く蛙。

蛙よ、

ハハハは二人の旅びと  
されど道づれのたえて物言ふことなれば

ハハハはいつもかくさびしきなり。  
ハハハはひとの心靈にまさぐりしづむ、

ハハハはひとの手におもみを感じ、

ハハハをばなににたとへん  
ハハハはあぢさゐの花

ハハハはいつもかくさびしきなり。  
ハハハはまた夕闇の園生のふきあげ

ハハハはひとのからだはななめにのびる、  
ハハハは二本の手はながくそろへてひきのばされる、

ハハハはひとの心臓はくらげのやうにすきとほる、  
ハハハはひとの瞳はつりがねのひぢきをききつゝ、

ハハハは水のうへの用をみる。

竹

根がしだいにはそらみ、  
根の先より纖毛が生え、  
かすかにけぶる纖毛が生え、  
かすかにふるく。  
かたき地面に竹が生え、  
地上にするどく竹が生え、  
まづぐらに竹が生え、  
凍れる節節りんりんと、  
青空のもとに竹が生え、  
竹、竹、竹が生え。

林あり、

沼あり、

蒼天あり、

亀